

# 互いに個性を認め合い支え合える学級づくり

—道徳授業と学級活動の実践を通して—

児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系  
氏名：白井はるか

## I. はじめに

『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)』(平成25年12月)では、道徳教育について「自立した一人の人間として人生を他者とともによりよく生きる人格を形成することを目指すもの」と述べられている。そのため、道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、自分に何ができるかを判断し、手立てを考え、実践できるようにしていく力を培う必要がある。

そこで、児童にとって、最も身近な社会である“学級”へ視点をあてた。学級集団の中で良好な人間関係づくりを学び、他者や社会へ主体的に関わることを通して、集団の中で「よりよく生きる力」を育成することにつながるのではないかと考えた。

本稿では、「互いに個性を認め合い支え合える学級づくり」を主題に、道徳授業と学級活動の時間を組み合わせ一定のテーマに基づいた小単元プログラムに関する実践の成果と課題を報告する。

## II. 主題設定の理由

### (1) 連携協力校の児童の実態

行事に向けて活発に取り組んだり、友達の頑張る姿を見て互いに高め合ったりするなど何事にも真面目に一生懸命取り組む児童が多い。

一方で、他者との関わり方に気になる場面も見られた。以下に4点例を挙げる。

- ・やる気のなさや他者批判をする子の言動が、学級全体に広がりやすい。
- ・気の合う仲間同士だけでよりよい新たな人間関係を築こうとする意欲が低い。
- ・学級の問題を自分事だと感じる意識が低い。
- ・集団の中で自分を表現することに不安を感じる。

上記であげたような現状を改善したいと考え、本主題を設定した。

### (2) 個性を認め合い支え合える学級集団とは

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』では、「個性」について、個人特有の特徴や性格であると述べている。そして、「個性の伸長は、自分のよさを生かし更にそれを伸ばし、自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。」と定義している。

よって、個性については、以下のように捉えた。

- ①その人が持っている特徴や性格など、自然性のもの。
- ②その個性を自覚させるためには、第三者の存在が必要であること。

③特徴や長所を育成することが個性の伸長であること。

前澤(2012)は「認め合える学級」について、「主体的に自他を肯定的に捉えようとする意識を全員がもっていること。」と定義している。

品田(2017)は「支え合える学級」について、「仲間が困っていることに気づき、助けたいと思い、相手にとってプラスになる行動を起こすことができる子が大多数である集団である。そのためには、相手の感情や考えを相手の枠組みで理解する共感性を育てる支援が必要である。」と定義している。

そこで主題に迫るために、次の2点が大切であると考えた。

- ①一人一人が多様な個性をもっていることに気づかせ、自他ともに肯定的に捉えようとする意識を高めること。
- ②自己理解や他者理解のチャンスがある体験を多く設定し、全体の共感性を高めていくこと。

### (3) 道徳教育と特別活動の関連

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』の目標に、「集団活動に自主的、実践的に取り組み」、「互いのよさや可能性を発揮」、「集団や自己の生活上の課題を解決」などが記されている。また、目指す資質・能力には、「多様な他者との協働」、「人間関係」、「自己の生き方」、「自己実現」など、どちらも道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれている。特別活動の集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割は大きいと述べている。そして、集団活動を通して身につけたい道徳性について以下のように示されている。

- ・よりよい人間関係を形成しようとする態度
- ・みんなのために進んで働こうとする態度
- ・自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度

これらのことから、道徳教育と特別活動を関連づけ、多様な他者と協働したり、集団の一員としてよりよく生きる方法を試行錯誤したりすることで、個と集団が共存していく力が育成されるのではないかと考えた。

## III. 先行研究

### (1) 学級集団の発達段階の捉え方とポイント

河村(2013)は、親和的な学級集団を育成していくためには、自他を肯定的に受け止め、認め合う関係を形成させることが必要であると述べている。

集団の成長にはある程度段階があり、大きく分ける

と以下の4つに分類されている。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ①混沌・緊張期[集団初期] | ②小集団成立期[中期]    |
| ③中集団成立期[後期]   | ④自治的集団成立期[完成期] |

これらのことから、集団の発達段階を考慮し、教師が他集団との協同的な活動を設定することが必要である。一人一人がふれあいのある人間関係を形成することで、集団の輪がより大きくなると考えた。

## (2) パッケージ型ユニット

田沼(2017)は、一定のテーマに基づいた小単元プログラムを「パッケージ型ユニット」と称し、子ども一人一人の道徳的課題意識を最大限に引き出すことができるとしている。取り組む際の視点とパターンを3つずつ示している。

- |  |
|--|
| (1)年間 35 時間の道徳科授業を大単元、つまりユニット(unit)として捉える。         |
| (2)学期ごと、節目ごとに事項の道徳の実態や道徳教育重点目標に照らして重点的指導内容を明らかにする。 |
| (3)年間指導計画に小単元プログラム(パッケージ型ユニット)を組み込む。               |

パターン①	テーマに迫るために1教材を複数時間で取り扱う
パターン②	テーマに迫るために、異なる内容項目を組み合わせ複数時間のユニットを組む
パターン③	中心となるテーマを、他教科と連携してユニットを組む

先行研究では、パターン②を活用した実践が多く見られた。しかし、本研究ではパターン③を活用することとした。道徳授業を核とし、体験活動を連携させることで物事を広い視野から多面的・多角的に捉え、よりテーマに迫ることができるのではないかと考えたからである。

## (3) 道徳授業と学級活動

柳沼(2013)は、「従来の道徳授業をそのまま教科化してもそれほど実効性は高まらないため、児童の日常生活の問題解決に役立つようなスタイルに道徳授業を根本から再構築する必要がある」と述べている。また、植木(2014)は、「道徳の時間と関連付けた道徳的実践を日々の学級活動の中で繰り返し行うことにより、その活動が意識付けとなって規範意識を効果的に醸成させることができた」と述べている。

以上のことから、道徳授業と学級活動を効果的に組み合わせることで、道徳授業を通して児童の日常的な課題に問題意識をもたせ、それに関連付けた体験活動をすることで、思考がより実感をもった気づきに変化し、よりよい集団形成につながると考えた。

## (4) 小さな道徳

鈴木(2018)の提唱する「小さな道徳授業」とは、10～15分のできる道徳授業のことである。児童の実態に合わせて活用したい教材と、2・3個の発問で

きるため、朝の会や授業の合間など、様々な場面で活用できるものである。小さな道徳を、パッケージ型ユニットに組み込むことで、授業間の結びつきを強くし、児童の新たな認識の芽生えや問題意識の持続・向上を促すことができると考える。

## (5) 構成的グループ・エンカウンターとは

國分(2004)は、構成的グループ・エンカウンター(以下SGE)について、「集団学習体験を通して行動の変容と人間的な成長をねらい、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法である。」と述べている。SGEは、①インストラクション②エクササイズ③シェアリングの3つの活動から構成されている。エクササイズは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験を促進するために6つのねらいが組み込まれている。

このことから、エクササイズを通して、仲間と交流する機会を充実させることで、自他理解を促進し共感性を高めることにつながると考えた。

## IV. 研究構想

### (1) 研究の目的

道徳的实践意欲と態度の育成を目標とする道徳授業と道徳性の発達に関わる実践的・体験的活動を行う学級活動の時間を中心にユニットを構成し、学びに「つながり」をもたせることで、児童の人間関係の育成や居心地の良い学級づくりにつながるようにすることを目的とする。

### (2) 研究仮説

- |  |
|--|
| (1)学級集団の発達段階に合わせてパッケージ型ユニットのテーマを構成することによって、児童の認識の変容を促すことができるだろう。   |
| (2)日常生活の言動の変容を教師が捉え、意味づけることで自他のよさに気づき互いに認め合い、集団の中で自己を生かすことができるだろう。 |

### (3) 目指す子ども像

自他のよさに気づき互いに認め合い、集団の中で自己を生かすことができる児童
--------------------------------------

### (4) 研究の手立て

#### 手立て①「パッケージ型ユニット」【仮説1】

##### (ア) パッケージ型ユニット構成方法

目指す子ども像に近づくために、児童の実態からテーマを設定し、道徳授業と体験活動を関連付けたパッケージ型ユニットを行うこととした。より、テーマに迫るために、教材の選定や組み合わせ方を工夫した。

また、学級の発達段階を考慮し、パッケージを重ねるごとに集団の輪が広がるよう組み立てた。以下に、パッケージ型ユニットの構成方法と4つのパッケージのねらいを示す。

手順	内容
1	【 <b>児童の実態把握</b> 】 ・キーワードの決定
2	【 <b>パッケージ終了後の児童の認識の把握</b> 】 ・どのような認識の変容や行動が望ましいのか明確にする
3	【 <b>テーマ設定</b> 】 ・育みたい力を目標として掲げる
4	【 <b>教材の選定</b> 】 ・複数の教科書、他学年の教科書、広告(ポスター等)、 漫画等から幅広く素材を選択する
5	【 <b>教材の組み合わせ方の決定</b> 】 ・授業ごとにテーマが深まる組み合わせにする
6	【 <b>教材研究</b> 】 ・教材ならではのねらい(本時の目標)を設定する

### 【資料1:パッケージ型ユニット構成方法】

学級集団の発達段階	時期	テーマ	ねらい
			【◎目指す集団の発達段階 ●単元のねらい】
[I]初期	4月・5月	友達と仲良くしよう!	◎新たな友達関係形成のきっかけづくり ●友達と関わることによさについて考え、ふれあいの時間を通して友達の輪を広げ、自己開示ができる温かい雰囲気を作成する。
[II]初期～中期	6月・7月	自分を見つめよう!	◎居場所となる小集団づくり ●自分を見つめる活動を通して、自己理解を促進させる。自分のことだけでなくできないことにも目を向けることで、他者と助け合って生きていこうとする意欲を高める。
[III]中期～後期	9月・10月	友道を大切にしよう!	◎小集団から中集団への集団づくり ●自己理解を通して他者理解を促進させ、一人一人が多様な個性をもっていることに気づかせる。自他を肯定的にとらえ、互いに認め合うことができるようにする。
[IV]後期～完成期	11月	よいチームを目指そう!	◎学級集団における個の自覚、自己・他者理解 ●『よい集団』を捉え直し、学級の中で自分の役割自覚や仲間に対して積極的に思いやりのある行動ができる学級を目指す。

### 【資料2:学級集団の発達段階とパッケージのねらい】

#### (イ)道徳授業

鈴木(2017)は、「道徳の時間は学級づくりの時間であり、ねらいを明確にして授業を行えば、道徳授業で児童の認識がどのように変容したかを捉えることができるようになる」としている。そして、「道徳授業での児童の認識の変容は、日常生活の言動の変容にもつながり、それを教師が的確に把握し、評価することが大切である」と述べている。児童の認識の変容を促すためには、児童に新しい認識や既にもっている認識への深まりを感じることができる授業づくりの工夫が必要である。よって、以下の3点を工夫する。

- ①教材を分析して「新しい認識」「深められる認識」を見抜き、ねらいに位置付ける。
- ②導入で、ねらいにつながるように問題意識を高める。
- ③終末で、授業の学びを児童の生活と結びつける。

さらに、テーマに合わせた「小さな道徳授業」を組み合わせることで、問題意識の持続や向上につながり、児童により一層の認識の変容を促し、自他の考えやよさを理解し、互いに認め合えるようにする。

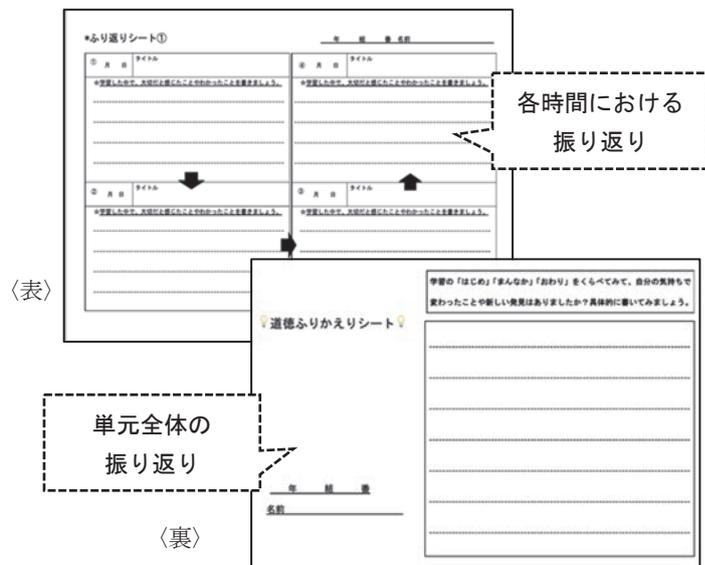
#### (ウ)構成的グループエンカウンター(SGE)

品田(2017)は、「SGEを活用し、自己理解や他者理解のチャンスがある体験を多く設定することで、全体の共感性を高めていくことができる」と述べている。特に、シェアリングで自他の気づきを表現させ、グルー

プや全体で発表し合う活動を日常的に行えば、自己理解や他者理解につながり、共感性を育むことができるとしている。仲間との交流する機会を意図的に作り出し、他者との関わりを深められるよう工夫した。

### 手立て②「1枚ポートフォリオ(OPPシート)」【仮説2】

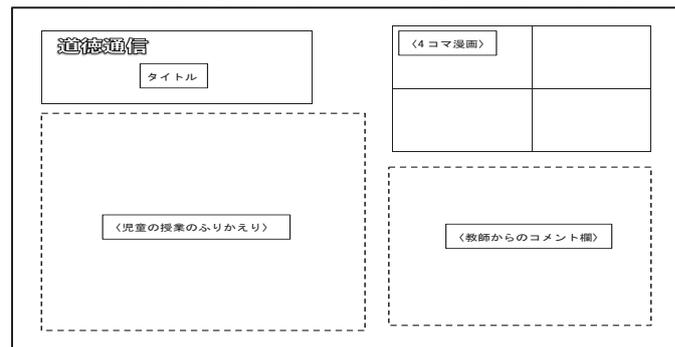
OPPシートは、日々の学習内容を記録していくものである。単元のまとめでは、学習の「はじめ」「まんなか」「おわり」を比較しながら、自分の学びの変容を可視的に振り返ることで思考を整理し意識を継続することができるようにする。



### 【資料4:一枚ポートフォリオ】

#### 手立て③「道徳通信」【仮説2】

道徳通信は、児童の「授業のふりかえり」、「4コマ漫画」、「教師からのコメント欄」で構成されている。「授業の振り返り」は、数人の児童のOPPシートを活用し、ねらいを捉えている考え方や考え方の幅を広げるもの、新たな問題意識が芽生えるようなものを抽出し掲載する。「4コマ漫画」は、授業の中で印象に残った場面や次の授業への興味をもたせるような内容を掲載することで児童が興味を示しやすくなる工夫をする。「教師からのコメント欄」は、授業中や日常生活でみられた児童の良い姿や行動を紹介し、授業との結びつけをしながら児童の行動を価値づける。よって、1時間の授業同士のつながりや、長期的に道徳的価値について考える場面を与えることができるようにする。

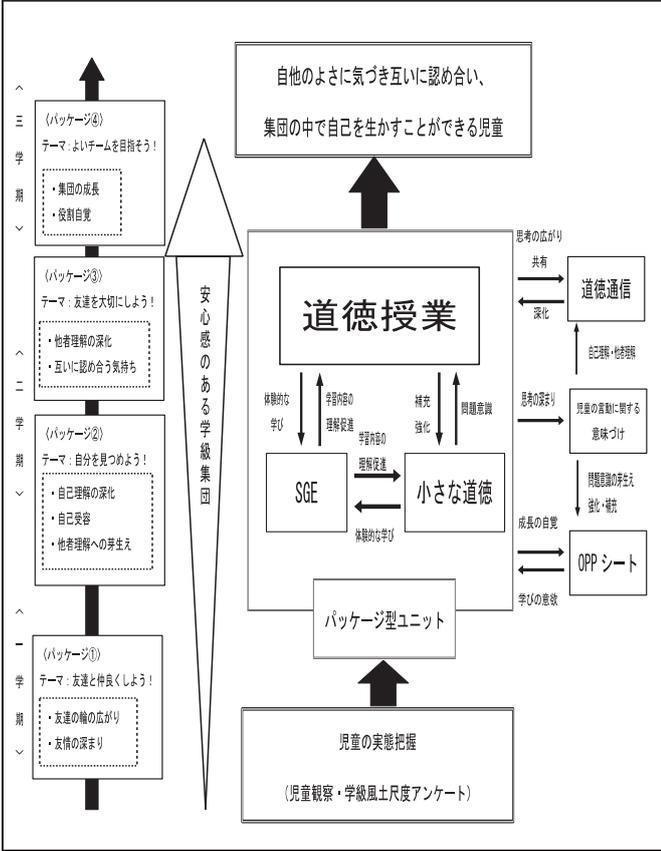


### 【資料3:道徳通信基本的構成】

(4) 検証方法

- ・教育活動における児童の発言や気付き
- ・抽出児の変容観察と考察
- ・授業の振り返りシート (OPP シート)
- ・学級風土尺度を基にしたアンケート

(5) 研究構想図



(3) 単元計画

テーマ	教材名	ねらい	自己理解	
自分をみつめよう！ 【自己理解】	小さな道徳 (あすなる書房：筒井ともみ)	いいね！	●教材をとおして自分はどうな「いいね！」をもっているか考え、自分のいいところを探りたい意識を芽生えさせる。そして、自分について知りたい・考えたいという意欲を高める。	自己探究の芽生え
	SGE (1週間)	いいね、ミッケ！	●自分のいいところやがんばったことを自分の言葉で書き記す活動を通して客観的に自己分析をし、改めて自分のことを見つめ直させる。	自己受容・自己理解
	SGE (朝の活動)	いいね。ミッケ！交流	●自分の発見を発表しあう中で、友達のよいところや頑張っていることを互いに知ることができる。	他者理解 ※道徳通信①
	道徳①	なんだろうなんだろう 『『自分』って、なんだろう。』 (光村図書：ヨシタケシンスケ)	●体験活動を通して、自分の「いいね！」に気がつきはじめた。よって、自己理解の深化を促すために、一人一人が新たに自分を見つめる方法を発見しようとする意欲を高める。	自己理解の深化①
	道徳通信 (朝の活動)	いいね、ミッケ！ なんだろうなんだろう	●ねらいに迫ることができている児童の振り返りを活用し、他の児童の認識を広げる。 ●4コマ漫画では教師のできないことを載せ、次の道徳授業への意識を高めていく。	自己理解の深化② ※道徳通信②
道徳②	結局できずじまい (講談社：ヨシタケシンスケ)	●「自分にできないこと」をテーマにしたお話(教材)をとおして、だれにでも「できること」や「できないこと」があることを受け入れる中で、できなくてもいいのかもしれないという気持ちを芽生えさせる。そして、できないからこそ互いに助け合ったりして生きていこうとする意欲を高める。	自己受容 自己理解の深化	

※単元計画では道徳通信の発行は1通のみの位置づけだったが2通発行に変更した。

→児童の実態観察や振り返りシートからよい行動や気づきがあったため、より単元のねらいに迫ることができると判断したため。

V. 授業実践の具体と考察①

(1) パッケージ型ユニットⅡについて

対 象：愛知県公立 T 小学校 第 5 学年 2 組 (32 名)  
期 間：令和 4 年 6/23 (木)～7/4 (月)  
単 元：パッケージ型ユニットⅡ  
[自分をみつめよう！]

年度当初、前年度の同クラス同士の小集団が目立っていたが、児童同士の交流が少しずつ活性化し、新たな小集団が形成されたり、小集団同士がつながったりするようになった。しかし、友達関係が内に閉じており、孤立している児童や自己開示が苦手で、自分をうまく表現することができず不安そうな表情をしている児童もいた。よって、単元を通して、自分自身を見つめ、自分には他人と違うところがあることを肯定的に捉える意識を育てていくこととした。そこで、パッケージ型ユニットⅡのテーマを、「自分を見つめよう！」とし、自己理解を深めることをねらいとした。以下は、授業の実践と考察である。

(2) 抽出児について

本研究における抽出児として、次の 3 人を選定した。

〈抽出児 A【悲承認群】〉

- ・教室にいて一人で過ごすことが多く、集団の中になると不安そうな表情をよくしている。

〈抽出児 B【学級生活満足群】〉

- ・興味や関心がある学習に対しては前向きに取り組む。

〈抽出児 C【非承認群】〉

- ・自己肯定感が低く、他者の気持ちを考えるのが苦手。

#### (4)授業の実際

##### 【実践①】 小さな道徳「いいね！」

教材を通して、自分のよさを探究したい意欲を芽生えさせ、次の教材への意識を高めた。本の冒頭に書かれている、『ボクも、アタシも、みんなみんな「いいね」を持っている。心の中や、体の中に。いっぱいいっぱい、持っている。』という言葉に注目させ授業を行った。

現段階で児童が考える自分のよさを知らるために以下の発問をした。

発問：どんな「いいね！」を見つけられますか？

児童の思考を広げるため列指名を行った。自発的な考えや、他者からほめられた経験から発表する子がいた中で、抽出児Aは、自分の順番がきても黙り込み、「いいねはわからない。」と答えた。他の児童も自分のよさを自分自身では感じにくい様子だった。そこで、「これからの活動を通して小さな『いいね！』を見つけていきましょう。」と全体に伝え、授業の感想を書かせ、授業を終えた。この時、抽出児は以下のように振り返っている。

- A：自分は人のこととかをいいとあまり思わないので、いいねはわかりませんでした。  
 B：「いいね」って、本当に人にはたくさんあるのかわからない。  
 C：「いいね！」を持っていると、自分では感じにくい。

##### 【資料5:実践①における抽出児の振り返り】

##### 【実践②】 SGE「いいね、ミック！」

###### 概要

方 法：1週間、自分のことを見つめる期間を設け記録用紙に記録する。

ねらい：自己理解・自己受容

工夫点①児童の実態に合わせて、エクササイズにアレンジを加えること。

②シェアリングの充実をはかること。

児童一人一人が、自分の良さやできたことを見つけられるよう、1週間自分記録を行った。実際に児童が見つけた「いいね！」を以下に示す。

- ・自分から挨拶ができた。
- ・傘を貸してあげたら「ありがとう」と言ってもらえた。
- ・給食をしっかり噛んで食べることができた。
- ・夜の8時に寝て、朝の5時半に起きることができた。
- ・掃除の時間に丁寧に机を拭いたら雑巾が真っ黒になった。

##### 【資料6:1週間の「いいね、ミック！」記録】

この時、抽出児は以下のように振り返っている。

- A：傘を貸したり、虫が苦手なこのために虫を退治したりした。自分の「いいね！」を見つけるためには、相手を思いやる気持ちが大切ということに気がついた。  
 B：「いいね！」がたくさんあり、「いいね」があるのは人間の特徴だとやっと理解できました。  
 D：友達に対して気遣う気持ちを持っているだけで、周りか

らは「いいね！」を持っていると感じられることが分かった。

##### 【資料7:実践②における抽出児の振り返り】

##### 【実践③】 道徳通信「いいね、ミック！交流」

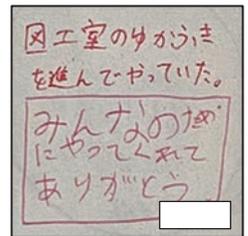
交流の場面では、1週間の記録の中から、自分が特に「いいね！」と思うものを3つ選択させた。グループごとに、「いいね！」を読み合い、ほめあう時間を設けた。抽出児以外にも児童の変容が見られた場面があった。

###### 【場面】

- ・1週間欠席していた児童のワークシートが空欄だった。その時、同じ班の児童Eが「〇〇さんのいいねを見つけたんだけど、書いてもいい？」と質問に来た。

###### 【児童の変容】

- ・自己を見つめる活動を通して、他者理解を促進させた。



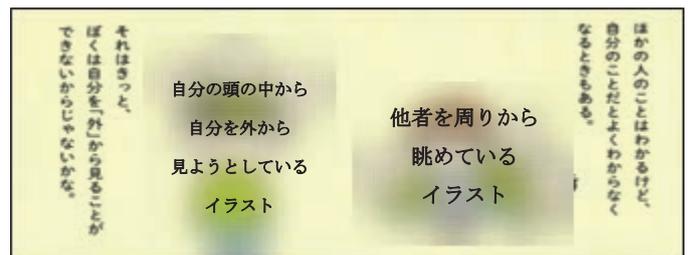
【児童Eの記述】

活動を通して自分が感じたことを文章化し、友達がか考えたことを聞くシェアリングの時間を大切にすることで、「友達とのつながり」を感じられ温かい雰囲気がか学級全体に広がっていくように感じた。

##### 【実践④】 道徳授業「なんだろうなんだろう『自分』って、なんだろう。」

SGEの活動をとおして、自他のよさに気づく児童が増加した。しかし、中には「友達のいいねは意外と見つけやすいけど、自分のいいねを見つけるのは難しい。」と考える児童もいた。よって、現状の児童の思考を教材と関連づけながら、別の視点で自己を見つめられるような実践を行った。

授業では、資料8をメインに取り上げ発問した。



##### 【資料8:なんだろうなんだろう挿絵】

発問：「ぼくは(自分を「外」から見ること)ができないからの( )には、どんな言葉が入ると思いますか？」

( )の部分を空欄で示し、児童は様々な意見を出し合った。イラストに目を向けるよう指示した後、( )の内容を伝えると、『「外」から見るってどういうこと？』と疑問を感じる児童が多くいた。自分を客観視する認識が低いように感じた。そこで、次の発問をした。

発問：どうしたら自分を「外」から見ることができるだろう？

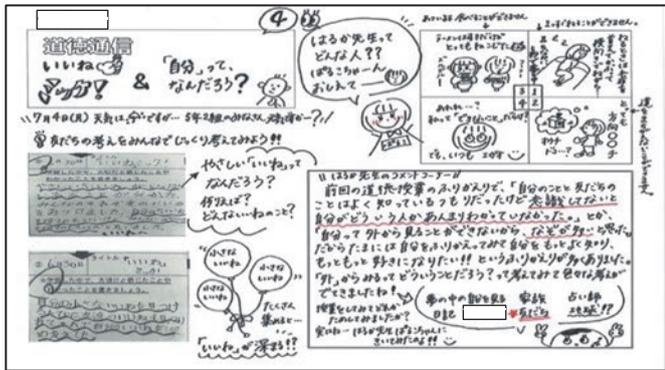
この発問に対して、「友達や家族に聞いてみる」「日記を書いてみる」「友達の表情から自分を見る」などのように自分を客観視できている児童もいた。しかし、「鏡で見てみる」「カメラで撮影する」など短絡的な思

考の意見も出た。「友達の表情から自分を見る」ということは、「他人を自分の鏡として捉えて見る」と言い換えることができる。児童から出てきた“鏡”という言葉 키워ドにして2つの考えを比較することで、浅い言葉の捉え方をしていた児童の認識の変容を促すことができたかもしれない。授業の中でいい考えをもっている児童や浅い言葉の捉え方をしている児童の発言を活かし子どもの思考が広がる授業を展開していく力が必要であった。この時、抽出児は以下のように振り返っている。

- A: 自分のことは少しでもわかるようにして自分のいいところを見つけていきたい。
- B: 自分を見つめられていないから、自分のよい所を見つめられていないと分かった。前に、「自分によい所はある？」と聞かれた時、「ある」と答えられなかったのも、自分を探せられていなかったからだと分かった。自分を見つめるのが大切だと感じました。
- C: 自分は…なんだろうね。自分のことはいっぱい知ってるのに自分が何かはわかりません。

**【資料9:実践④における抽出児の振り返り】**

実践④で押さえられなかった児童の認識の捉え直しをするために道徳通信②を発行し、朝の活動を行った。「児童の振り返り」と「教師のコメント欄」を活用し、授業時間で伝えきれなかった内容を補充・強化した。以下に実際配布した道徳通信を示す。



**【資料10:配布した道徳通信②】**

**【実践⑤】道徳授業「結局できずじまい」**

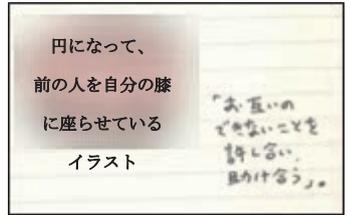
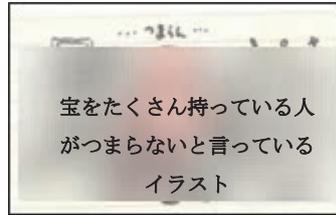
これまで、自分のよさに目を向けて考えを深めてきた。実践⑤では、「自分の中にあるできないこと」に視点をあてている。本の内容から3つ選択し、紙芝居形式で紹介したことで児童の教材への興味関心が高まった。その後、以下の発問をした。

発問: あなたはできないことがあったらなんとかしたいと思いませんか？

この発問には○×で答えさせることで、全員が自分の意見を持てるよう工夫した。この時点では、○と答えた児童が半数以上だった。理由は、「諦めたくないから」「できることは嬉しいけど、できないことってなんかカッコ悪いから」という意見が出た。そこで、次の

ような発問をした。

発問: なんでヨシタケさんは、『解決への努力ができない。できないことは楽しいことでもあるからだと思います。』と言っているのだろうか。



**【資料11:結局できずじまい挿絵】**

2枚の挿絵に着目させながら、作者の気持ちを考えた。左の挿絵に関して、「確かに！全部手に入ってしまうとおじさんみたいにつまん…ってなる気がする！」「できないことがあったらなんとかしたいって思っていたけど、できない何かに挑戦していた時間を実は楽しんでいたのかもしれない」と考えに変化がみられた。右の挿絵では、「そっか！どんなに頑張ってもできないことってある！だから助け合うことが大切なのか。」という意見がでた。振り返りからも多くの児童の中で、できないことに対する認識の変容が見られた。この時、抽出児は以下のように振り返っている。

- A: なんでもできるようにしようと思っていただけ、友達とできないことを助け合っていくことが大切だと思った。
- B: できないことがない人は、羨ましいと思ったけど、今回の勉強で、苦手なことがあってもいいという逆の発想があり驚きました。自分は、できないことがいっぱいあると思っていたら、もっともっといっぱいあってびっくりしたけど、できることもいっぱいありました。
- C: 人にはそれぞれ個性があることがわかった。

**【資料12:実践⑤における抽出児の振り返り】**

**(5)実践の考察**

**①単元全体の振り返りからみた抽出児の変容**

A	はじめ	最初は「いいね」などがよくわからなかった。
	なか	だんだんわかるようになってきてその後のことも少しずつわかるようになってきた。
	おわり	これからもちよっとずつ自分についてわかることを増やしていきたいと思った。
B	はじめ	自分のことをあまりよくわかってなかったし、できることが少ないのは悪いことだと思っていた。
	なか	だんだんと自分がわかってきた。
	おわり	ハッキリいうと、できないことがあるから人生には色々変化があって楽しいと感じることがわかった。そして、できないことがあるから、助け合えて協力できて、自分も人を支えていると思いました。
C	はじめ	最初は、自分には、「いいね」は全然もってないと思っていた。

なか	少し自分に自信がもてたかもしれない。
おわり	今だったら、自分の中に「いいね！」をちよつともっているって言えるかもしれない。 自分のいいねは少ししか思いつかないけど、みんなのいいねを見つけるのは結構得意になったので、自分のいいねを見つけれられるようにしたい。

【資料 13: 単元を通した抽出児の振り返り】

抽出児の記述から、自己理解の促進や他者と協力し合うことの大切さに気づくことができたと考えられる。

②児童の言動に関する意味づけの効果

《事例 1 : 実践②より》

- ・授業中、筆者が児童 F の記述から新たな一面を発見し、思わず驚きの声をあげた。教師の反応に興味をもって集まってきた児童が、「え！？知らなかった！」「えー！意外！！」と、色々な反応をした。本人も嬉しそうな様子で普段話をしない児童とも楽しそうに会話をしていた。

【教師の意味づけによる効果】

- ・教師の素朴な感情の表出が、児童 F の自己理解を促しただけでなく、周りの児童と児童 F を結びつけるきっかけとなった。

《事例 2 : 単元終了後の振り返りにて》

- ・抽出児 A の振り返りに、「はるか先生に自分が気づいていないことをほめてもらったことで自分のいいところを知れて本当に嬉しかったです。」という記述が見られた。

【教師の意味づけによる効果】

- ・教師(他者)から自分のよさを認められることで、自己理解が深まる。

これらのことから、朝の会や帰りの会、ワークシートの朱書き、日常会話、授業中など様々な場面で、「認める」「褒める」機会を拡充させることで、自己理解の深まりを促すことができたと考えられる。つまり、教師が児童一人一人のよさを認め、それを児童に感じさせてあげられるような行動をとっていくことが大切であるといえる。

③成果と課題(成果：○、課題：▲として示す)

- 「できること」「できないこと」を含めて自分であると、自己を肯定的に捉えることができた。
- 他者と助け合うことの大切さに気づくことができた。
- 自分を大切にしたいと考える児童が増えた。
- ▲他者と助け合うことの大切さに気づく認識の変容を促すことはできたが、行動の変容までには至っていない。
- ▲児童のよさを価値づける時間が十分に確保できていない。
- ▲児童の考えから深める授業展開ができていない。

VI. 授業実践の具体と考察②

(1)パッケージ型ユニットⅣについて

対象：愛知県公立 T 小学校 第 5 学年 2 組 (32 名)  
期間：令和 4 年 11/10(木)～11/17(木)  
単元：パッケージ型ユニットⅣ

[よいチームを目指そう！]

これまでのパッケージを通して、互いの個性を認め合う意識を高めてきた。しかし、一人一人が学級の一人として自覚を持ち、支え合う意識はまだ低いように感じていた。そこで、パッケージ型ユニットⅣのテーマを、「よいチームを目指そう！」とし、行事と関連付け児童が自己の役割を自覚し、互いの成長のために協力できる集団を目指すことをねらいとした。以下は、授業の実践と考察である。

(2) 単元計画

テーマ：よいチームを目指そう！ [集団の成長]

	教材名	ねらい
小さな道徳	グループじゃない、チームだ (日本ハム 広告)	●グループとチームの違いを知り、自分たちのクラスの現状はどちらに近いのかを考える。そして、グループではなくチームを作っていくためには何が必要か考えようとする意欲を高める。
道徳①	麦わらの一味 (ONE PIECE10巻：尾田栄一郎)	●教材をとおして、人は誰かに頼らないと生きていけないということを改めて自覚する。そして、だれにでもある「できること」「できないこと」を支え合い、助け合うためには、日常生活でどのような言動ができるか考え、意欲を高める。
SGE	すごろくトーキング!	●学級をテーマにしたすごろくを用いて、自分の考えを伝え合う。そして、「よいチーム」を目指すようとする意欲を高める。
道徳②	森の絵 (日本文教出版)	●自分がやりたかった女王の役を譲り、やる気を失ったえり子が、みんなのために絵を描こうと決めるに至った気持ちの変化を考えることを通して、集団の一員として自分の役割を自覚し、集団全体のことを考えて行動しようとする道徳的態度を養う。
道徳通信 (朝の活動)	森の絵	●ねらいに迫ることができている児童の考えを教師が問題提起を加え、全体に共有・共感することで、思考の広がりや問題意識を高める。

(3) 授業の実践

【実践①】小さな道徳「グループじゃない、チームだ」

導入で、児童の興味関心を高めるための工夫として広告の〈チーム〉の部分の隠し、以下の発問をした。

発問：「日本ハムグループはグループじゃない、〈チーム〉だ。」の〈 〉には、どんな言葉が入ると思いますか？

児童からは、「家族」「仲間」「本気」といった様々な意見が出たところで、〈 〉に入る言葉は、〈チーム〉であると伝えた。そして、グループとチームの違いについて考えを出し合った後、次の発問をした。

発問：今、このクラスは、グループ・チームどちらですか？

挙手で意思表示させた。チームと答える児童が多いため、紙に○を書くよう指示し問い返しを行った。「その○の大きさがみんなの目指すチームの最大値だとすると、現在値どんな大きくなるかな？」と、学級の現状について視覚的に表現させた。すると、「まだ学級目標を達成できていないから最初の○より少し小さい○」「○の大きさは変わらないけれど、○の縁をもっと太くできると思う」と、学級の現状を見つめることができた。その後、「このクラスがチームになるために、あなたは何かができますか？」と問い、授業を終えた。教材を通して、学級はチームであるという意識を高め、学級目標を再認識させることができた。この時、抽出児は以下のように振り返っている。

- A: よいチームを目指すためには、自分も何かできることを見つけて行動しないといけないのかな？
- B: 一人一人が輝くためにも、もっと仲間を大切にしたいし、困っていたら助けたい。
- C: このクラスのために、自分ができること何かあるかな。

【資料 14: 単元を通した抽出児の振り返り】

【実践②】 道徳授業「麦わらの一味」

児童が好きな『ONE PIECE』を教材化し授業を行ったことで、普段はあまり乗り気でない児童が、興味を示し積極的に授業に参加していた。ルフィが「おれは助けてもらわねえと生きていけねえ自信がある」という自分のできないことを認めているのにもかかわらず肯定している場面を提示した。そこで、ルフィは仲間から厚い信頼を得ている理由について考えた。すると、「互いに「できること」「できないこと」を支え合い協力し合うことで仲間の輪が大きくなるのではないか」「ルフィは戦いに必ず勝つことができ、自分の役割を全力でやり遂げているから信頼されている」という考えが生まれた。教材から学級を成長させるためのヒントを見つけることができていた。

- A: クラスの子に頼ってみることも大切なかもしれない。
- B: 一人一人のいいところを探してできないことは麦わらの一味みたいに協力して助け合えばいいと思った。
- C: 互いに信頼し合うことが大切だと思った。クラスのために優しさや勇気のある行動をしたいけど…難しい。

【資料 15: 単元を通した抽出児の振り返り】

【実践③】 SGE「すごろくトーキング！」

概要

方 法: ①グループ(5~6人)を作成する。  
 ②さいころをふり、出た目の数だけコマを進める。  
 ③止まったコマに書いてある質問に答える。

ねらい: 他者理解

工夫点: ①児童の実態に合わせて、手作りのすごろくシートを作成した点。  
 ②意図的なコマを用意し、互いに意見を共有したり協力し合えたりする機会を用意した点。

児童の関係性を深めるため、普段話さないような児童同士が同グループになるよう編成した。お題は、マスを進むに従って徐々に内容の深まる作りになっている。実際に使用したすごろくを以下に示す。

みんなで協力・交流  
ストップマス  
[16. 24. 25. 26. 30]

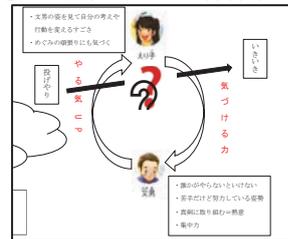
必ずストップマス  
[4. 11. 21]

【資料 16: 手作りすごろくシート】

活動を通して、「普段はあまり話さない子と話をしととっても楽しかった」「クラスの子の新しい発見ができて嬉しかった」等、児童間に自然と笑顔が生まれ、学級全体があたたかい雰囲気になった。

【実践⑤】 道徳通信（「森の絵」の補充として作成）

実践④では、登場人物の文男の姿から一生懸命取り組むことで友達にやる気を与えられると気づく児童が多くいた。しかし、本気で取り組む文男の姿をみて変わろうと決めたえり子の気持ちの変化に触れる視点が不足していた。2人が与えあった影響について深めることで、発表会を一生懸命行うことの意味についてさらに意識を高めることができると考えた。よって、道徳通信で補充した。えり子のすごさに視点を当てていた児童の振り返りを活用し、一生懸命行うことのよさについて考えた。話し合った結果、「みんなの心が一つになる」「絆が深まる」「自分の頑張りが学級のレベルアップにつながる」等の意見が出たことから、一人一人の発表会に対する意欲を高めることができた。



【資料 17: 補充した視点】

2人が与えあった影響について深めることで、発表会を一生懸命行うことの意味についてさらに意識を高めることができると考えた。よって、道徳通信で補充した。えり子のすごさに視点を当てていた児童の振り返りを活用し、一生懸命行うことのよさについて考えた。話し合った結果、「みんなの心が一つになる」「絆が深まる」「自分の頑張りが学級のレベルアップにつながる」等の意見が出たことから、一人一人の発表会に対する意欲を高めることができた。

(4) 実践の考察

① 単元全体の振り返りからみた抽出児の変容

A	はじめ	自分が行動しなくても他の人がやってくれるからいいやと思っていた。
	なか	「できること」「できないこと」って人それぞれだから、人に任せるんじゃなくて自分の役割をしっかりとやらないとみんなが困る。
	おわり	みんな協力し合えば、いろいろなことができるようになる。これからは、自分もできることをして仲間のために協力したい。
B	はじめ	ワンピースの授業で、このクラスには、信頼・絆・協力が少し足りていないと思った。
	なか	すごろくを楽しみながらこのクラスのいいところを知り、もっとこれからもいいクラスにしていきたいと思います。
	おわり	この授業で、クラスのいいところもたくさんわかったけど、できていない部分にもたくさん気づくことができた。もっとみんなのことを知って協力し合えるクラスにしたい。
C	はじめ	このクラスがチームになるために、自分になができるかわからなかった。
	なか	森の絵で、自分が苦手なことも一生懸命取り組めば、他の人にもやる気を与えられることがわかった。だから、発表会でも自分のやりたくない役でも一生懸命やろうと思った。
	おわり	発表会を「頑張ってたかった」って思え、一生懸命やることの大切さを知った。ちょこ

っと自分に勇気もてて、人のために考えて行動する勇気が出た。

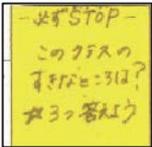
【資料 18: 単元を通した抽出児の振り返り】

単元を通した抽出児の振り返りから、一人一人が学級の一員として自覚を持ち、よりよい学級にしようとする意識を高めることができたと考えられる。

②児童の言動に関する意味付けの効果

《事例 1：実践③より》

- ・すごろくのマスに答えられない児童がいた。すると、同じグループの児童が「みんなで考えよう！そしたらたくさん見つかるんじゃない！」と級友を助ける姿が見られた。活動後、児童の行動を全体に紹介した。



【教師の意味づけによる効果】

- ・授業での学び(助け合う姿)を意味づけすることで、ほめられた本人はもちろん、全体に「助け合う」という行動が具体化され、児童の学びが持続される。

《事例 2：実践④後》

- ・学期初め、係の仕事を忘れがちな児童がいた。しかし、授業が終わると同時に筆者に駆け寄り、「先生、黒板消してもいいですか？」と聞きに来た。自分の役割を自覚し、できることから行動に移そうとする姿が見られた。

【教師の意味づけによる効果】

- ・授業で学んだことをすぐに行動に移すことができ素敵ですね。ありがとう。」と声をかけた。個々の児童の様子を観察し、よい行動を発見し次第すぐに認める声かけをすることで、集団の中で自分の役割に自信をもって行動しようとする意欲を高めることができる。

これらのことから、意味づけをすることで「人の役に立っている」「自分は認められている」という実感を得ることができているように感じる。そして、実感が自信に変わり、集団の中で自己をいかすことができるようになったと考えられる。

③成果と課題(成果：○、課題：▲として示す)

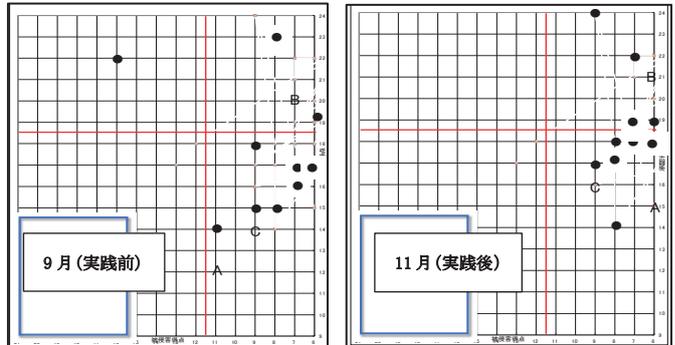
- 自己の役割を自覚し、クラスのために進んで働こうとする態度を育むことができた。
- 自分のことだけでなく、周りの児童のことを考えて行動できる児童が増え、困っている人がいたら早く気づくことができるようになった。
- 教師からの意味づけを通して児童に気づきを与えることで、自己のよさを自覚し、集団の中で自己の役割を責任もって行おうとする態度を育むことができた。
- ▲児童自身に体験活動のめあてや必要感をもたせる意識が足りなかった。
- ▲思いやりに関する授業を扱うことで、支え合える関係性をより深めることができたのではないかと。
- ▲授業内で児童の気持ちを高めることができていても、継続的に実践を行わないと意識の定着は難しい。

VII. まとめ

(1)学級風土尺度を基にしたアンケート結果

パッケージ型ユニットⅢ・Ⅳの実践を行った9月と11月に、学級風土尺度を基にしたアンケートを実施した。学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の2つの観点から学級内に見られた変化を以下にまとめる。

①学級満足度尺度

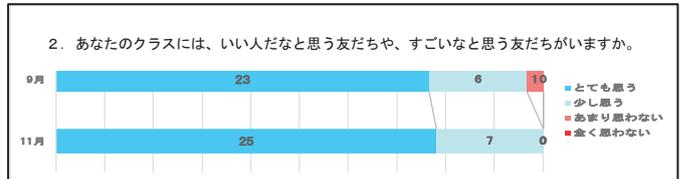


【資料 19: 抽出児の実践前と実践後の学級満足度尺度】

わずか2ヶ月という短い期間ではあるが3人の抽出児(A, B, C)に変化が見られたことからよい方向に動いたと考えられる。

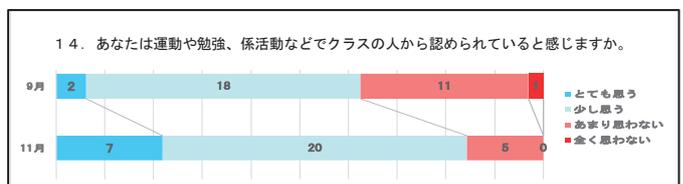
②学校生活意欲尺度

アンケート結果①は、パッケージⅠで、友達に関する単元を扱っていたため、「あなたのクラスには、いい人だなと思う友だちや、すごいなと思う友だちがいますか。」という質問に対し、9月・11月共に「とても思う」「少し思う」と答える児童が多かった。



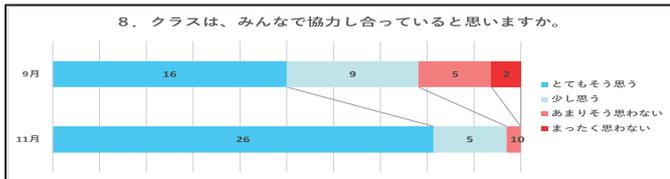
【資料 20: アンケート結果①】

パッケージⅢでは、自他を肯定的に捉え、互いに認め合うことが実感できる活動を行った。SGEでは、「友達のすてきミッケ！」を行い、互いに素敵を伝え合うことで、自他のよさに気づくことができるエクササイズを実践した。児童の振り返りからは、「自分の意外なことをほめてくれた」「自分に自信をもてるようになった」「自分の知らなかったよさに気づくことができた」など他者から認められる体験から自分のよさに気がつく児童が多くいた。また、アンケート結果②も、9月の時点で、クラスの人から認められていると全く実感できない児童やあまり思わない児童がいたが、11月では実感できる児童の割合が増え、実感できない児童の割合が減った。



【資料 21: アンケート結果②】

パッケージⅣでは、学級集団における個の役割を自覚し、互いに協力し合う意欲を高めることをねらいとした。実際に学級の中で、「給食をみんなで協力し、残食ゼロを目指す姿」「困っている友達がいたら助け合う姿」「係活動を積極的に取り組む姿」等様々な場面で互いに支え合う姿が見られた。アンケート結果からも、9月は、「少し思う」「あまりそう思わない」と答える児童の割合が多かったが、11月は、「とても思う」と答える児童が増えたことからパッケージのねらいを達成できたと考える。



【資料 22: アンケート結果③】

以上のことから、集団の発達段階に合わせてねらいを明確にした授業実践を積み重ねることで、児童の認識や言動の変容を促すことができた。本研究の取り組みによって、互いに個性を認め合い支え合う意識が高まったと考えられる。

## (2) 研究の成果と課題

本研究では、2つの仮説に対して、成果を上げ互いのよさや考えを認め合い、よりよい学級にするために協力し合おうとする意識を高めることができたのではないかと考える。仮説ごとに、成果(○)と課題(▲)を以下にまとめる。

### ① 仮説 1

- 児童の実態からテーマを設定し、道徳授業と体験活動を関連付け、パッケージ型ユニットを行った結果、児童に新たな認識の芽生えや問題意識の持続・向上を促すことができた。
- 児童の思考を刺激する発問や身近な問題として意識づける発問を工夫した結果、問題意識の持続や高まり、認識の変容を促すことができた。
- SGEを通して、自己理解を深める体験を多く設定し、仲間と交流する機会を意図的に作り出すことで、一人一人がふれあい、関係性を深めていき集団の輪が広がった。
- ▲児童の考えを深めたり、広げたりする授業展開能力が足りなかった。児童の発言(気づき・つぶやき)をうまく拾い、全体に切り返す力を身につけていく。
- ▲授業の振り返りから、全児童がねらいにせまることができていない。よって、授業を改善する必要がある。教材ならではのねらいを設定し、導入や児童の思考を刺激する発問を工夫していく。

### ② 仮説 2

- 教師が児童の言動の変容を意味づけ、「認める」「褒める」機会を拡充することで、自分のよさに気づくだけでなく、互いに認め合うことができた。

○道徳通信を活用し、授業中や日常生活で見られた児童の良い姿や行動を全員で共有・共感しあうことで、学級の中でよい行動が具体化され、一人一人の意識を高めることができた。

▲日常生活への変容が見られなかった児童もいる。OPPシートの作成方法を工夫する必要がある。単元の前・後に同じ問いを設定することで、より多くの児童が自己の変容に気づくことができるようにする。

▲集団の中で自己を生かすことができているのだが、自己理解が乏しい児童がいる。教師や他者からの意味づけが不足していた。一人一人を的確に把握し、個に寄り添った支援を工夫していく。

## (2) 今後に向けて

本研究では、「自他のよさに気づき互いに認め合い集団の中で自己を生かすことができる児童」の育成を目指すために、道徳の授業や体験活動を柱とした4つのパッケージ型ユニットを組み立てた実践を行った。

児童の様子やアンケートの結果から研究の成果が見られた。本研究に取り組むきっかけとなった場面は、現在ほとんどみられない。これは、自分の実践があったからだけではない。担任の先生や学校の協力、日頃から先生が積み上げてこられた学級経営があったからである。

来年度から、正規教員として現場に出る。大学院での理論的な学びと実習で得た実践的な学びを往還させながら、一人一人が安心できる学級づくりを目指していきたい。

### 《引用・参考文献一覧》

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別な教科道徳』
- ・道徳教育の充実に関する懇談会(2013)『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)-新しい時代を、人としてより生きる力を育てるために-』
- ・河村茂雄(2013)『教育的相互作用の高い学級集団の発達過程と教師の指導行動の関係の検討』学級経営心理学研究, 2巻, 22-35
- ・田沼茂紀(2017)『パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価道徳科授業のつくり方』、東洋館出版社
- ・品田笑子(2016)『一人ひとりが「小さなよさ」を発揮でき、認め合える学級づくり』児童心理 11月号, 第70巻 17号, 44-49
- ・品田笑子(2017)『思いやりを表現できる学級づくり』児童心理 7月号, 第71巻 10号, 40-46
- ・柳沼良太(2013)『道徳の時代がきた!道徳教科化への提言』教育出版
- ・鈴木健二(2017)『道徳授業をおもしろくする!子どもの心に響く道徳づくりの極意』教育出版
- ・河村茂雄(1999)『エンカウンターで学級が変わる(3)』図書文化社
- ・國分康孝(2004)『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社
- ・堀哲夫(2019)『新訂一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の容姿の可能性』東洋館出版社, 264項
- ・河村茂雄(2012)『学級集団づくりのゼロ段階-学級経営力を高める Q-U 式学級集団づくり入門』図書文化